

ホットライン後にも2件の相談 退職者を期間工で再雇用

ルネサス山口工場（宇部市）、柳井工場（柳井市）の両工場は、先週18日から始まった早期退職募集（10月31日退職）を19日までの2日間で締め切りました。早期退職募集は、当初26日までとじていました。両工場とも多くの製造現場従業員が退職募集に応じたために、きゅうきょ打ちきったものです。全国的にも予定していた5千数百名規模とされていた想定数を大きく上回って7千名程度の従業員数となっていると言われてます。

16日のホットライン後にも県労連にルネサス従業員からの相談がはいつてきています。18日には、山口工場前工程で勤務する20年勤続の男性から「NHKのホットラインの紹介見て」と電話相談がありました。「二人目の子どもが誕生したばかりで妻も働けない。自分も5～6年前から顔面マヒの症状がある。親は残れと言っているが、早期退職に応募すべきか残留すべきか悩んでいる」と。

また、19日には柳井工場に27年間勤務する男性（46歳）から退職に応募したと電話がかかってきました。「現場の労働者の多くが募集に応じている。引きとめられている人もいる。自分は6カ月契約の期間工での再雇用に応じた」「上積みの退職金が分割払又は後払いも有り得るとの書面が渡された。家のローンに回そうと思っていたのに、やり方がおかしい」「期間工の20万円の一時金も出勤率95%以上でないとダメと言われた。有休も使えない。継続して働くのなら正社員でしてほしいのに」と。去るも地獄、残るも地獄の心境がヒシヒシと伝わってきます。

19日に第3回実行委員会 自治体等への再要請、シンポなど確認

ルネサス実行委員会（会長・藤永佳久）は19日、県労連会館会議室で第3回役員会を開催しました（11名参加）。

実行委員会では、これまでの経過について確認するとともに、アンケート、電話・メールでの相談などの職場の状況、県議会や宇部市・山陽小野田市・柳井市議会等9月議会の状況などについて意見交換。今後、自治体などを巻きこんだ地域ぐるみの運動としていくために、自治体や商工会議所などの諸団体への申し入れ、NEC・日立製作所・三菱電機の親会社に責任果たすことを求める申し入れをおこなうこと、「事業継続」求める署名や宣伝行動を検討していくこと、いろいろな立場から意見を出し合うリストラシンポジウムを実施すること、退職再雇用の期間工の組織化をめざすことなどについて確認しました。